

[年度] 平成26年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] カシノナガキクイムシ被害防除手法の開発

[要約] 紀州備長炭の原木であるウバメガシ林がカシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）による被害を受けている。そこで、ウバメガシ被害木を4月までに伐倒するだけでカシナガの発生を1%以下に抑制できる簡易な駆除手法「伐倒残置」を開発した。

[キーワード] カシノナガキクイムシ、太平洋型、ウバメガシ、常緑樹林、伐倒残置

[担当機関] 林業試験場 経営環境部

[連絡先] 電話 0739-47-2468

[専門分野] 林業

[分類] 普及

[背景・ねらい]

1999年に新宮市(旧熊野川町)でカシナガによるナラ枯れ被害が発生し、その被害エリアは年々広がり、紀州備長炭の原木であるウバメガシ林にも被害が及んでいる。被害対策にはカシナガの生息密度を減らすことが重要であることから、カシナガの発生時期を明らかにするとともに簡易な駆除手法の開発を行った。

[成果の内容・特徴]

1. カシナガの発生時期は6月下旬から11月中旬で、コナラよりもウバメガシの方が発生期間が長く、1孔あたりの発生頭数もウバメガシの方が多い(図1)。
2. カシナガの被害を受けたウバメガシは、小径被害木(平均胸高直径11.0cm)から34.8頭/孔、大径被害木(平均胸高直径20.0cm)から36.3頭/孔と発生するカシナガの頭数は同じである。
3. ウバメガシ被害木は4月までに伐倒するだけでカシナガの発生を1%以下に抑制することができる簡易な駆除手法「伐倒残置」を開発した。
しかし、ウバメガシ被害木を高切りしたまま放置すると、カシナガの発生を増長させてしまうため、地際で伐倒することが重要である。
また、コナラ被害木では伐倒残置による抑制効果は高くない(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1. ウバメガシ被害木は、小径木であっても駆除すること。
2. ウバメガシ林におけるカシナガ対策は、簡易で低コストな手法「伐倒残置」が適用できる。
なお、被害木は4月までに伐倒すること。
3. ウバメガシ被害木を高切りし、その切株を放置すると、カシナガの発生を増長させてしまうため、なるべく地際で伐採すること。
4. コナラ被害木における伐倒残置の抑制効果は高くないため、伐倒後に破砕か焼却処理を行う従来の伐倒駆除が望ましい。

[具体的データ]

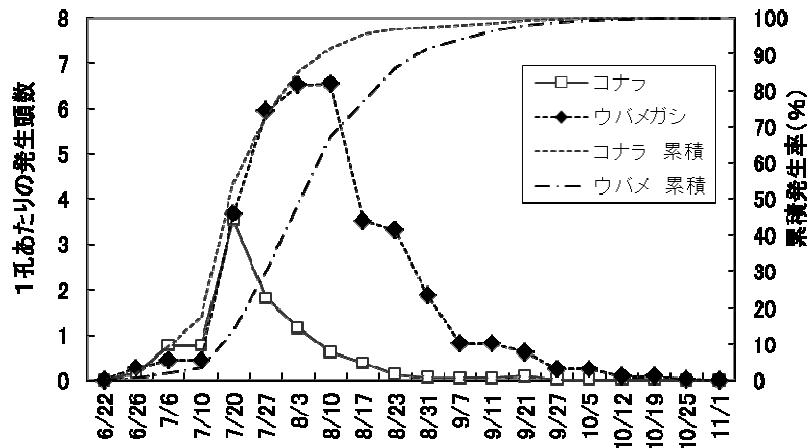


図1 コナラとウバメガシからのカシノナガキクイムシ発生期間

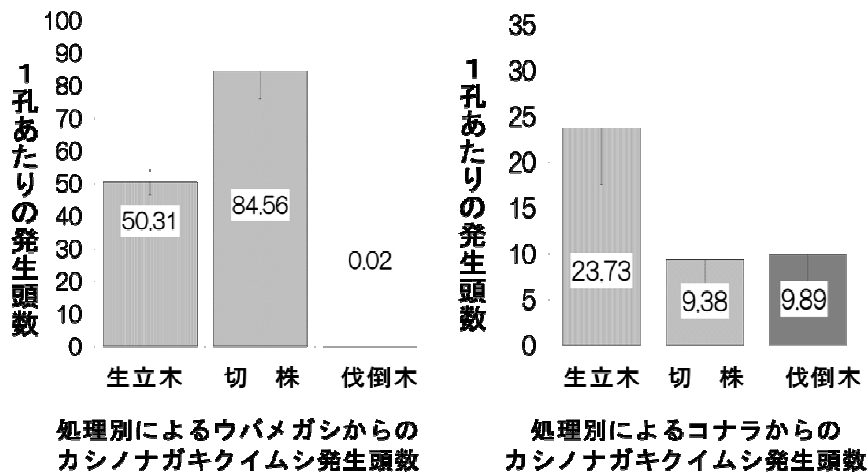


図2 伐倒残置によるウバメガシとコナラの効果比較

※図中のバーは標準誤差(S.E)を示す

[その他]

研究課題名：広葉樹資源の有効利用を目指したナラ枯れ低コスト防除技術開発

予算区分：国費（競争的資金）

研究期間：平成 24～26 年度

研究担当者：大谷栄徳、山下由美子

発表論文等：栗生剛・中森由美子 和歌山県のシイ・カシ林におけるカシノナガキクイムシ被害発生動態.第 124 回森林学会大会講演集 P1-148

栗生剛・中森由美子 ウバメガシの伐倒処理によるカシノナガキクイムシの発生頭数. 第 125 回森林学会大会講演集 P2-189

大谷栄徳・山下由美子 カシノナガキクイムシによるウバメガシの穿孔被害と被害軽減対策の開発.森林防疫 63 2014. 11 : 249-252

ホームページ掲載の可否：可